

# 稲葉小の特別支援教育2024

～すべての子どもに どのクラスでも～

『仲間とつながり合い支え合う関係づくりを進め、安心感の中でどの子どもにとっても「わかる」、「できる」学習を目指す』それが稲葉小の特別支援教育です。

今、障がいを含むさまざまな特性の子どもたちが共に学び、一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の構築が求められています。(本校ホームページ「特別支援教育」リンク資料等参照)

本校では、特別支援教育や合理的配慮の充実に努めています。本校の特別支援教育の基本方針や取り組みの概要をお知らせします。



稲葉小の子どもたちは、素直で明るく学習にも運動にも元気に取り組み、一人一人がその子なりのよさや長所をもっています。一方で、読むこと、漢字を覚えること、話すこと、作文、計算、歌うこと、楽器を演奏すること、絵をかくこと、走ること、ボール運動など・・・多くの子どもたちが学習面で何らかの苦手意識や困難をもっています。さらに、人と上手に関われない、集団で規律を守って行動するのが苦手、集中が長く保てない、感情のコントロールがうまくできない、人の気持ちを上手に読めない、判断や我慢が苦手、やりたいことや言いたいことをすぐに行動に移してしまうなど、行動面が未熟でうまくいかない子もいます。それから、心の問題を抱えている子もいます。こうした困難は、学習はもちろん、登校すること、集団生活や人間関係づくりの障壁にもなります。

障がいの有無に関わらず、何らかの困難を抱えながらがんばっているすべての子どもたちによりよい支援を提供できるように、本校の職員は努めています。取り組みの主なものは以下の通りです。

○的確な児童理解にもとづいて支援方針を立て、関係する職員が連携してチームで支援する。

○だれにでもやさしく、わかりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを目指す。

○読み・書き・計算のスクリーニング検査等による実態把握と、それにもとづく個に応じた朝の学習や授業における配慮、補充学習などの PDCA サイクルで、基礎基本の定着に努める。

○学習面の遅れや困難、適応や集中持続の問題、発達や認知特性の偏り、心の混乱など、情緒面で困難がある児童については、複数指導体制による個別支援や特性に応じた合理的配慮の充実に努める。さらに、学習相談学級において、個々の特性により対応した教育内容ときめ細かな支援を提供する。

○さまざまな異年齢集団活動や体験活動を取り入れ、人間関係づくりや社会性の育成を促す。道徳科や特別活動、日常的な指導で規範意識や公共のマナーを高め、生活・行動面の成長を促す。

○幼稚園・こども園・保育園や中学校との連携を強化して、子どもの特性や効果的な支援策など、情報・支援方針の引き継ぎに努める。

学校では、保護者やご家族の皆さんも、子どもを支え育むための重要な支援者と考えています。問題状況や困難の改善、効果的な支援・教育のためには、学校と家庭の連携が不可欠です。お子さんの問題や気になること、保護者の方の困りごと、子育ての悩み、支援方針や合理的配慮の希望など、何でもお気軽に各学級担任にご相談ください。事前に調整の上、面談を設定することも可能です。また、学校には、以下のような担当職員もおります。直接ご連絡をいただくことも可能です。

○特別支援教育コーディネーター(発達の問題、学習・行動面の困難):小泉

○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーコーディネーター(心の問題、子育ての悩みなどの相談、外部の相談機関・医療機関等の利用や連携):琴寄<教務主任>

○いじめ・不登校担当(不適応、対人関係や問題行動など):田部井<児童指導担当>

○指導全般:築島<教頭>

稲葉小学校 ☎82-1004



